

## 【(8) 教材・教具】

- ⑤「授業の流れに応じたワークシート等を作成している」
- ⑥「児童生徒の理解度に応じたワークシート等を作成している」

### 《つまずきの背景》

A 刺激の影響の受けやすさ、B 言語理解の困難さ、C 記憶力の弱さ、D 文脈を理解することの困難さ、F 視覚認知の困難さ、H 刺激の選択の困難さ、I 目と手の協応動作の困難さ、J 言語表現の困難さ、K イメージすることの困難さ、N 注意の持続の困難さ

### 《解説》

ワークシートに図や表、吹き出しを盛り込むことで、子どもに考える手掛かりを与えることができます。そのことで子どもが思考を深め、自分の考えをまとめやすくなります。また、ワークシートを蓄積しておくことで学びの振り返りがしやすくなります。

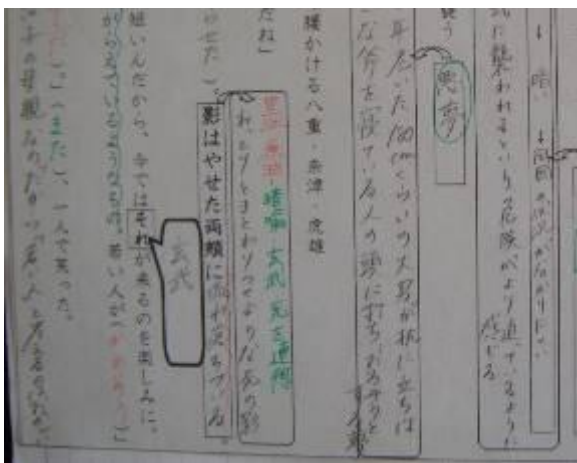
学級の中には、何に注目し、どのように表現したらよいか分からない子どもがいる場合があります。ワークシートを穴埋め式にしておき、キーワードを書き込むようにしたり、ヒントを載せたりするなどの工夫をすることで考える助けになります。また、文字をきれいに書くことが苦手な子どもにとっては、枠や升目があると文字を記入しやすくなります。

事前に2種類のワークシートを用意し、学級の子どもたちにどちらを使うか選択させるようにすると支援の必要な子どもも使用しやすくなります。

### 【工夫点】

- ・考える時間を重視し、授業の流れに沿ったワークシートを作成する。(小中高 工夫例 55)
- ・ヒントを見ながら段階的に考えるためにワークシートを作成する。(小中高 工夫例 56)

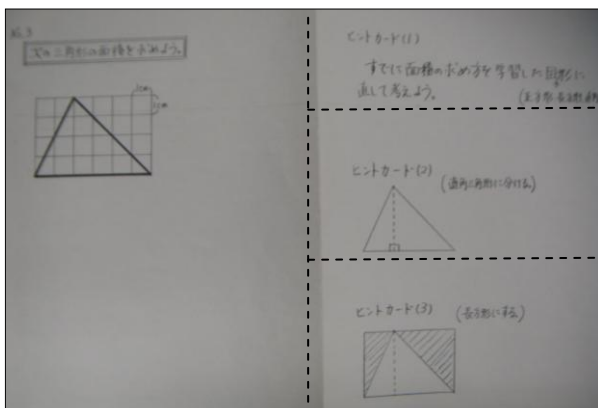
#### ◆工夫例 55 「考える時間を重視し、授業の流れに沿ったワークシートを作成する」



#### 《国語 現代文（高等学校3年生）》

発問をワークシートに書いておくことで考える時間を確保しています。書くのが遅い人もいますので、大切な語句のみを書けばよいようにしています。キーワードになる言葉は、テスト勉強でも大事なポイントになることを伝えます。

#### ◆工夫例 56 「ヒントを見ながら段階的に考えるためにワークシートを作成する」



#### 《算数 図形（小学校5年生）》

左半分に、自力で解決する問題を提示します。右半分は、それぞれのヒントを切って、必要に応じて配ったり子どもが取りにきたりして、自由に使うことができるようにします。